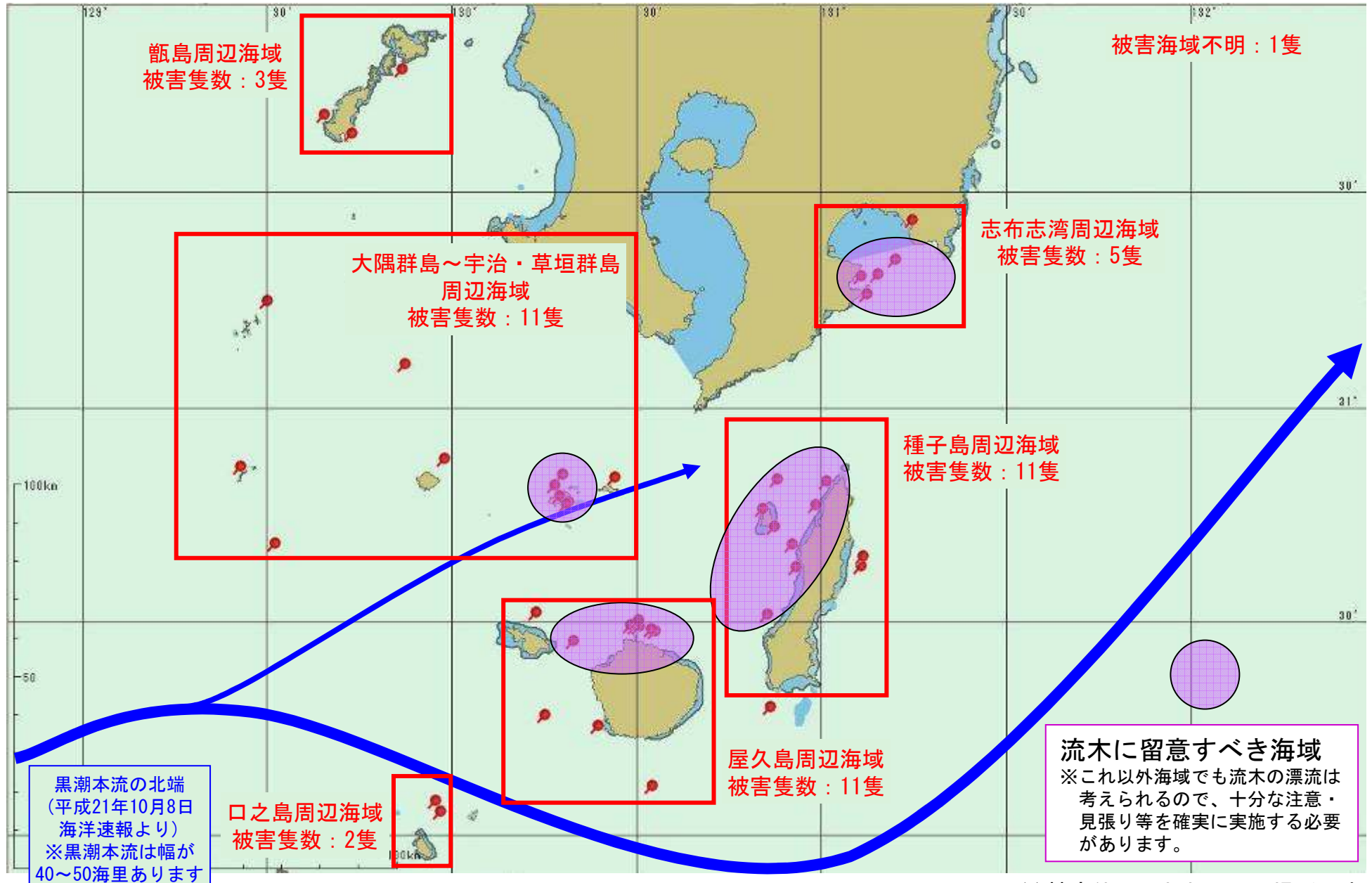


ハザードマップ (合計被害隻数 : 44隻)

平成21年10月13日
第十管区海上保安本部



注) 被害位置はおおよその場所です

流木被害の状況と傾向について

流木被害発生海域	隻数
種子島周辺海域	11隻
屋久島周辺海域	11隻
大隅群島～宇治・草垣群島周辺海域	11隻
志布志湾周辺海域	5隻
甌島周辺海域	3隻
口之島周辺海域	2隻
海域不明	1隻
合計	44隻

- 9月上旬～中旬、種子島・屋久島周辺海域に流木が多数漂流してきたため、同海域にて流木との衝突等被害が多発した。
種子島・屋久島周辺海域では、黒潮本流から分岐し大隅海峡を抜ける東向きの海潮流が定期的に見られことから、同海域に流木が多数漂流してきたもの。
- 9月下旬以降、甌島・志布志湾周辺海域での流木被害が増加している。
甌島周辺では、黒潮本流から分岐した北向きの海潮流が同海域を通過するため流木が漂流してきたもの。
志布志湾周辺では、黒潮本流から分岐し大隅海峡を抜けた東向きの海潮流が大隅半島沿岸付近を北向きに流れているため流木が漂流してきたもの。

《個別海域》

- 種子島周辺海域の被害状況は西之表港・馬毛島周辺海域での被害が多く、屋久島周辺海域では、一湊・志戸子漁港(屋久島北部)沖での被害が多い。
当該海域周辺は黒潮本流及び分岐流の影響が大きく、流木が漂流しやすい海域であるため航行船舶等は十分留意する必要がある。
- 志布志湾周辺での被害状況は、黒潮の分岐流の影響により志布志湾沖まで運ばれた流木と接触したものと推測される。
大隅群島西方海域で流木が発見されている現状を考慮すると、大隅海峡を通過し同海域に漂流する可能性が十分考えられるため、当該海域を航行する船舶等は十分留意する必要がある。
- 宇治群島及び草垣群島周辺海域では、黒潮本流から分岐した北向きの海潮流やさらに分離した支流が同海域に流れ込む環境にあり、且つ、潮目が発生しやすく流木が溜まる傾向にあるので、当該海域を航行する船舶等は十分留意する必要がある。

